

2026年3月米雇用統計

<米3月雇用統計概要>

- ・米3月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比で+178千人と市場予想の+65千人を大幅に上回る結果となった。また、過去2カ月分については、1月分は+126千人から+160千人へ、2月分は▲92千人から▲133千人へとそれぞれ修正された。
- ・失業率については、4.3%と前月から▲0.1%低下した。しかし、失業率低下の要因として、労働力人口が前月比で396千人減少し、労働参加率は61.9%へと低下していることが影響した可能性がある(※)。
- ・平均時給については、前月比+0.2%、前年比+3.5%と賃金の伸びの鈍化が示された。
- ・総じてみると、非農業部門雇用者数は2月の医療関係企業のストライキや悪天候による下振れからの反動による部分はあるものの大幅な伸びが示されたほか、失業率も低下するなど、労働市場の減速への懸念を後退させる内容となった。

※失業率は失業者数(16歳以上で働く意思のある人たち)を労働力人口(就労者数+失業者数)で割ることで算出するため、失業者が就業することを諦めると失業者数は減少し、計算上失業率は改善することとなる。

<米3月雇用統計結果>

主要項目	2月分	3月分	市場予想(3月分)
非農業部門雇用者数(千人)	▲133(修正前▲92)	178	65
失業率(%)	4.4	4.3	4.4
労働参加率(%)	62.0	61.9	62.0
労働力人口(千人)	170,483	170,087	-
平均時給(前月比)(%)	0.4	0.2	0.3
平均時給(前年比)(%)	3.8	3.5	3.7

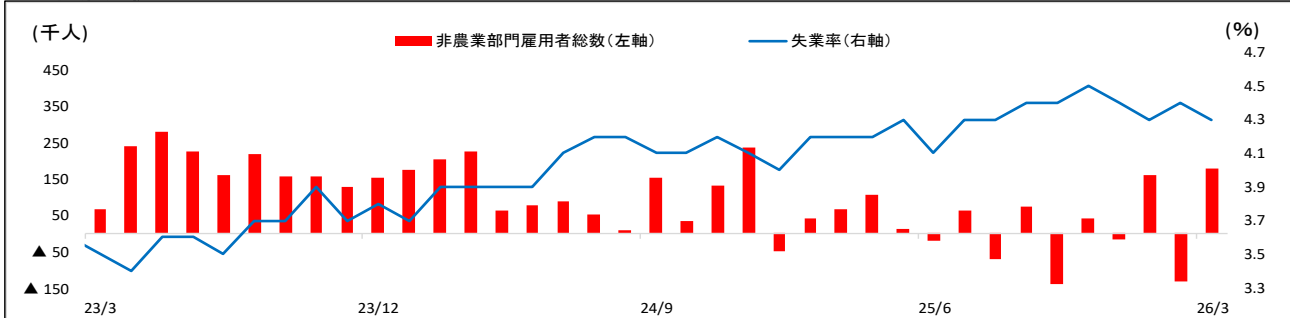
【米国雇用統計について】

- 米国雇用統計とは、米国雇用の情勢(失業者数や就業者数など)を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表され、指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。
- FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

<項目別の雇用者数増加幅(単位:千人)>

項目	前回結果	今回結果	項目	前回結果	今回結果
鉱業・木材伐採	▲1	2	専門・事業サービス	7	2
建設	▲13	26	教育・ヘルスケア	▲42	91
製造	▲6	15	レジャー・宿泊	▲11	44
貿易・運輸・公益事業	▲49	33	政府	5	▲9
情報	▲21	▲3	その他サービス	▲4	▲8
金融	2	▲15			

<米国雇用統計チャート>



<市場動向>

	4月2日 終値	4月3日 終値	前日比
ドル/円相場(円)	159.60	159.67	+0.07
S&P500(ポイント)	6,582.69	6,582.69	-
米2年金利(%)	3.796	3.840	0.044
米国長期金利(%)	4.305	4.341	0.036

※FF(フェデラル・ファンド)金利とは

- ・FF金利とは米国の銀行間市場で資金貸借をする際に適用される金利を指し、日本における無担保コール翌日物金利に相当する。FF金利は米国において政策金利として用いられる。
- ・FF金利先物とはFF金利を原資産として将来のFF金利を予約する取引であり、投資家の予想が集約されるためFF金利先物の水準を見ることで将来のFF金利の予測が観測可能である。

<相場動向>

米国金利

米国金利は、米雇用統計において非農業部門雇用者数は大幅に増加、失業率も低下するなど総じて労働市場の底堅さが示されたことで、利下げ観測は後退し、金融政策への感応度の高い2年金利は前日比+0.044%の3.840%、10年金利は同+0.036%の4.341%まで上昇した。

ドル/円相場

ドル/円相場は、米雇用統計公表後は米国金利の上昇を背景に一時159円81銭まで上昇したが、イースター休暇(グッドフライデー)により市場参加者が限られるなかでドル買いの勢いは続かず、節目の160円を前にして上値重く推移した。

米国株

米国株式市場は、グッドフライデーにより休場となった。

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。